

平成 26 年 7 月 29 日	病虫害発生予報 8 月号	茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会
---------------------	-------------------------------	------------------------

平成 26 年度茨城県農薬危害防止運動期間中です (6/15～9/14)
～農薬散布の際は、防護装備をしっかりと着用しましょう～

< 目 次 >

I. 今月の予報	
【注意すべき病虫害】	
水稻：いもち病(穂いもち)，斑点米カメムシ類	1
水稻：ニカメイガ	2
ナシ：黒星病	2
ナシ：ナシヒメシンクイ	3
【防除所レポート】：ナシヒメシンクイの防除適期の予測	3
果樹共通：チャバネアオカメムシ	4
【その他の病虫害】	
水稻，大豆，サツマイモ，ナシ，ブドウ，抑制トマト，秋冬ネギ，夏秋ナス， 共通害虫	4
II. 今月の気象予報	6
最新の農薬登録内容は，(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。	
水田において農薬を使用するときは，農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに，止水期間を1週間程度とすること。	
詳しくは，病虫害防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病虫害防除所 Tel :029-227-2445 予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/	

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（穂いもち）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並～やや早い	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、水稻の生育は平年並～やや早い。（7月22日発表 農研速報 参照）
 - ② 7月下旬現在、葉いもちの発病度*（本年値 6.5，平年値 5.5），発生地点率（本年値 70%，平年値 53%）ともに平年並～やや高い。
 - ③ 水稻の出穂期頃に降雨が続くと穂いもちの発生が助長される。気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想され、発生を助長する条件ではない。
- ※ 発病度：病斑をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① いもち病菌がイネの穂に侵入しやすいのは、出穂直後から出穂後14日位までである。この期間に降雨が続く場合は、発生に注意が必要である。
- ② 穂いもちを対象とした薬剤防除の適期は、穂ばらみ末期～穂揃期である。葉いもちが多発し、上位葉に病斑が進展している水田では、防除を徹底する。

2. 斑点米カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、水田周辺雑草地（畦畔・農道等）における斑点米カメムシ類のすくい取り虫数は平年より多く（本年値 23.8頭，平年値 7.0頭），発生地点率は平年よりやや高い（本年値 86%，平年値 69%）。
- ② 7月下旬現在、本県における斑点米カメムシ類の主要種であるクモヘリカメムシの水田周辺雑草地におけるすくい取り虫数は平年より多い（本年値 7.8頭，平年値 2.5頭）。
- ③ クモヘリカメムシの産卵開始時期は、平年よりやや早いと予測される（7月23日現在までの、クモヘリカメムシの発育に有効な気温の積算値から算出）。
- ④ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 斑点米カメムシ類の成虫を対象とした防除適期は、穂揃期である。穂揃期に成虫を確認した場合は防除を実施する。
- ② 斑点米の発生防止には、斑点米カメムシ類の幼虫を対象とした防除が有効であり、防除適期は、出穂期の10～15日後頃（乳熟期）である。

(水稻 斑点米カメムシ類 続き)

- ③ 「あきたこまち」等の早生品種を栽培している水田では、成虫の飛来が集中する恐れがあるので注意する。また、その他の品種についても周辺より出穂の早い水田では注意する。併せて、収穫の遅い水田では、新成虫の飛来により8月中旬以降に斑点米カメムシ類の密度が高まることがあるので、十分注意する。
- ④ 水田内のイネ科雑草やカヤツリグサ科雑草は斑点米カメムシ類を誘引するので、除草に努める。
- ⑤ 斑点米カメムシ類の生息場所となる水田周辺のイネ科雑草については除草に努める。ただし、出穂期近くになってからの除草は、カメムシ類を水田内へ追い込むことになるので、水稻の出穂期前2週間～出穂期後2週間の除草は行わない。

※ 病害虫発生予察注意報第2号（平成26年7月29日発表）参照

3. ニカメイガ（第二世代幼虫）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、第一世代幼虫による被害株率（本年値2.1%、平年値1.1%）、発生地点率（本年値19%、平年値12%）ともに平年よりやや高い。
- ② フェロモントラップへの越冬世代成虫の誘殺数は、水戸市及び筑西市では平年より多く、龍ヶ崎市では平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 本虫の発生は、近年、局地的に増加している。第一世代幼虫による被害が多い水田では、第二世代幼虫を対象に薬剤防除を8月上旬～中旬に実施する。
- ② 薬剤防除の際には、収穫前日数等に十分注意する。

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、発病葉率（本年値1.2%、平年値0.6%）、発病果率（本年値1.8%、平年値0.7%）ともに平年よりやや高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想され、発生を助長する条件ではない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病した果実及び葉は二次伝染源となるため、見つけ次第除去し、土中深く埋める等、適切に処分する。

(ナシ 黒星病 続き)

- ② 発病が確認された圃場では、発病部位を除去した後に薬剤防除を行う。
- ③ 薬剤防除の際には、収穫前日数等に十分注意する。
- ④ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

2. ナシヒメシンクイ(第四世代幼虫)

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、第四世代幼虫の発生時期は、第二世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と発育に有効な気温の積算値から、平年よりやや早いと予測できる。
- ② 7月下旬現在、フェロモントラップへの第二世代成虫の誘殺数は、小美玉市及び土浦市で平年より多く、かすみがうら市で平年よりやや多く、笠間市では平年並である。
- ③ 7月下旬現在、被害果率は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 被害果を見つけた場合は、土中深く埋める等速やかに処分し、成虫の発生を防ぐ。
- ② 早生品種(「幸水」等)で被害が認められた場合は、中生～晩生品種(「豊水」や「新高」等)で被害が多くなる傾向があるので注意する。
- ③ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。
- ④ 薬剤防除の際には、収穫前日数等に十分注意する。
- ⑤ 薬剤散布の時期については、下記の防除所レポートを参考にする。

防除所レポート【ナシヒメシンクイの防除適期の予測】

- ① ナシヒメシンクイ第四世代幼虫を対象とした防除適期は、第三世代成虫の誘殺数がピークに達した日の直後(1～2日後)である。
- ② 各地点の第三世代成虫の誘殺最盛期は、第二世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と発育に有効な気温の積算値から予測した。
- ③ 発生時期の予測は7月25日現在であるため、今後の情報は病害虫防除所ホームページを参考にする。

表 調査圃場におけるナシヒメシンクイ第四世代幼虫の予測防除適期

地点	第四世代幼虫の予測される防除適期 ¹⁾		
茨城町	8月17日	～	8月22日
笠間市(旧友部町)	8月17日	～	8月22日
笠間市(旧岩間町)	8月18日	～	8月22日
小美玉市	8月13日	～	8月18日
かすみがうら市	8月21日	～	8月25日
土浦市	8月13日	～	8月16日
筑西市	8月8日	～	8月12日

1) 予測した第三代成虫の誘殺ピークの1～2日後とした。

果樹共通

1. チャバネアオカメムシ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在，ナシにおける被害果率（本年値 0.3%，平年値 0.1%），発生地点率（本年値 25%，平年値 7%）ともに平年よりやや高い。
- ② 7月下旬現在，果樹園に設置した予察灯への誘殺数は，笠間市及びかすみがうら市で平年より多い(過去 11 年中 2 位)。
- ③ 7月下旬現在，主要な餌場及び繁殖場所であるヒノキ林での発生は平年より多い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 果樹園内でカメムシ類を確認した場合は，活動の鈍い早朝に薬剤防除を行う。
- ② 今後，果実が肥大するカキやリンゴでは，飛来する恐れがあるので注意する。

（平成 26 年 5 月 28 日発表 病害虫発生予察注意報第 1 号参照）

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	縞葉枯病	発生量：多い (県南，県西地域)	7月下旬現在，県南及び県西地域では平年より多い発生である。その他の地域では平年並である。
	イネツトムシ	発生量：平年並 ～やや多い	7月下旬現在，平年並～やや多い発生である。7月下旬～8月上旬に発生が多い場合には，幼虫が小さいうちに防除を実施する。
大豆	紫斑病	発生量：—	防除適期は開花期の 20 日後頃である。開花期以降から成熟期までに連続した降雨があると，発生が多くなるので注意する。県内では，チオファネートメチル剤に対する耐性菌が出現しているため，それ以外の薬剤を使用する。
	カメムシ類	発生量：平年並	7月下旬現在，平年並の発生である。
	チョウ目幼虫		
サツマイモ	ナカジロシタバ	発生量：平年並	7月下旬現在，平年並の発生である。
ナシ	ハダニ類	発生量：やや多い	7月下旬現在，平年よりやや多い発生である。

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
ブドウ	褐斑病	発生量：やや多い	7月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	べと病	発生量：やや多い	7月下旬現在，露地栽培において平年よりやや多い発生である。
トマト 抑制	黄化葉巻病	発生量：－	発病株はただちに抜き取り適切に処分する。媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。
秋冬ネギ	さび病	発生量：平年並 ～やや多い	7月下旬現在，夏ネギにおいては平年並～やや多い発生である。
	ネギアザミウマ	発生量：やや多い	7月下旬現在，夏ネギにおいては平年よりやや多い発生である。
夏秋ナス	ハダニ類	発生量：平年並	7月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。向こう1か月の気温は平年より高く，日照時間は平年並か多いと予想され，発生を助長する条件である。
共通害虫	オオタバコガ	発生量：やや多い	7月下旬現在，フェロモントラップへの誘殺数は水戸市で平年より多く，土浦市，龍ヶ崎市，筑西市で平年よりやや多く，笠間市で平年並である。
	ハスモンヨトウ	発生量：平年並	7月下旬現在，フェロモントラップへの誘殺数は筑西市で平年よりやや多く，水戸市，笠間市，鉾田市，土浦市，龍ヶ崎市で平年並である。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 7月26日から8月25日)

気象庁(7月24日 発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>
[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	30	50
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	20	40	40

[概要]

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 7月26日(土曜日)から8月1日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

<2週目の予報> 8月2日(土曜日)から8月8日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

<3週目から4週目の予報> 8月9日(土曜日)から8月22日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。